

環境首都札幌推進協議会第4回会議【議事概要】

日時：平成22年3月17日(水) 10:00～12:00

場所：札幌市役所本庁舎2階 西会議室

次第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 各委員の取組状況について
 - (2) 札幌市の事業報告について
 - (3) 平成22年度の活動予定等について
- 3 その他
- 4 閉会

1 開会

- ・宮佐環境計画課長より開会宣言
- ・委員17名中、13名の出席を確認
- ・資料の確認
- ・本日の予定の確認

2 議題

- (1) 各委員の取組状況について

菊池委員

商店街連合会の理事長をさせていただきます。これから発表させていただきますことは、小さな気づきで、どちらかの選択をしたら少しはエコにつながるのではないかと、いうことを念頭に置いて活動していきましようというところから始めています。

商店街連合会は46の組合がありまして、2,400の組合員がおります。一昨年の8月にさっぽろエコメンバーという制度ができまして、これは環境サミットの後にできたシステムです。我々としては環境サミットの前に大騒ぎするよりも後から地についた長い活動をするとということで、札幌市の取り組みは評価していたところですが、商店街連合会として一気に何かをやるということは非常に難しい中で、商工会議所、ハイヤー協会、トラック協会とともに、推進していきましようということで、市長会議室で調印式をして、大々的に報道もされたものでございます。

エコメンバーは、項目が15ぐらいございまして、その中で1個でもあれば星が一つつくのですが、どちらかといいますと、こういう項目を見て意識づけさせられることが非常に重要だと思っております。星の数には余りこだわっておりません。3年に1回更新ということなので、一つのところは二つをとれるようにしましようという程度のこと

で、無理のない推進をしております。

「まちの灯り」事業というのは、3年目を迎えましたが、アイスクャンドル事業です。ただ、一般的ならろうそくというのは鉱物油を使ったろうそくが多うございますが、これは植物油を使ったろうそくで、小樽の業者から買っているのですが、環境に配慮したような形で燃えかすも土にかえるようなものを使ってやっております。

まちづくりフォーラムを毎年やっているのですが、平成19年は環境をテーマにしてやっております。そのときに、環境省の国民生活対策室というところの、チームマイナス6%の方をメインスピーカーにお招きしまして、札幌市環境局の方、それから環境NGOの方と書いておりますが、ezorockの草野さんです。それから、地域NPOの方というのは、うちの商店街の中で発寒北商店街というところがありまして、そこはNPO法人ハツキタというものを持っておりまして、いろいろな活動をしておりますけれども、その方と環境財団の方をパネリストに迎えて環境問題に対する取り組みを題材に行いました。

引き続きまして、会員商店街における取り組みでございます。

札幌商店街というモエレ公園、さとらんどにつながる通りにある商店街ですけれども、そこでは段ボールを利用したコンポストを購入し配るということで、生ごみの再利用をするという事業をしております。

あとは、廃油回収は区役所で結構やられているのですが、これを持っていくのが大変だという住民の声が聞かれております。その中で、発寒北商店街、発寒商店街、石山商店街などは、商店街で回収して、それを自治体へ持ち込むという作業をしております。

さらに、先ほど植物油を使っていますと言った「まちの灯り」事業に対して、発寒商店街と発寒北商店街では、この回収した廃油から子どもたちにろうそくをつくってもらうということで、それをまた利用した形で「まちの灯り」事業を展開しております。

出ている写真は、発寒商店街です。発寒北商店街は、写真が見つからなかったのですが、去年、新聞でもいろいろ取り上げられて話題になっておりますアトム通貨をやった商店街です。そのスタートの日に、勝手に830で発寒の日と名づけまして、8月30日にイベントをしてスタートしてはりましたが、その中でも廃油を使ったろうそくづくりをやっておりました。さらに、実際にBDFで動いているトラックをディスプレイしておりまして、エンジンをかけてみんなで排煙のにおいがかぐという事業もしておりました。微妙にエビのてんぷらくさいようなにおいが、そういう先入観もあるのですが、普通のディーゼルとはにおいが違うような感じがするということです。

次は、イベントのときも分別収集しましょうということを商店街単位でやられているところはたくさんあるのですが、その中で特徴的なところを二つご紹介させていただきます。

美園商店街は夏祭りをやるのですが、大体2,000人から3,000人ぐらいの人が来るイベントです。その中で、札幌市などと連携してごみの対策パネル展などを実

施した上で、分別作業とか廃油回収に参加していただいた方には、ここではかき氷券となっておりますけれども、そういう形でインセンティブを差し上げることによってイベントとの相乗効果を出している事例です。

北24条商店街という北区役所のところにある商店街ですけれども、ここら辺は、スロークライフという形で料飲組合の方と地産地消などを進めているところですが、そのほかに24エコ・フェスタも実施されております。エコバッグ事業を中心にしてスタンプラリーをやられたり、パネル展をやられたり、絵画、ポスター制作をしていただいたりということをされております。そういう形で、商店街及び住民の方々にエコの意識を根づけるということをイベントとして行っております。

大通地区まちづくり協議会という組織がありました。昨年8月に札幌大通まちづくり株式会社と法人化されましたが、この当時は大通地区まちづくり協議会という形で行っていました。その中で、これも平成19年度のことですけれども、全国数カ所でエコ事業の勉強会を行いまして、最終的には東京で事例発表会のような形で行うという中の札幌会場編をやりました。午前から始まって午後までやって、間に昼食を挟むということで、その昼食において、極力、ごみを少なくしましょうということで、45リットルのごみ袋の半分ぐらいしかごみを出さないようなイベントにしました。結局、すべて捨てないものにして、捨てるものは漬物を入れていたパックと握り飯をなるべく大きく一つの包装にしてもらってごみが出ないようにしてみんなで食べたということです。ここで使ったコップ、皿、お絞りは今でも札幌大通まちづくり株式会社に保管されておりまして、会議のときには今でも使っております。ですから、今でも、ペットボトルのお茶ではなくて、冷蔵庫で冷やして自分でつくる麦茶とか、極力、ごみが出ないような会議を心がけております。それも、こういう会議を1回したことによりまして、このようにやればごみが出ないのだということがわかったというのが実例でございます。

これも大通まちづくり協議会ですけれども、去年、おとしと打ち水をやりました。これは、本州では打ち水は非常にはやっていますが、北海道でやって本当に効果があるのかということもございました。これは環境財団と一緒にやってまして、路面では4度ぐらい下がりますし、路面から1メートルの高さでも2度ぐらいは下がります。ただ、よほど暑いときにやらないと効果が実感できないのが難点です。また、これは上水をまいたら何も意味がないです。ですから、札幌市のご協力をいただきまして、高度処理水という下水処理水を殺菌しただけの水でございます。飲料には適さないのですけれども、まく水としては別に問題ないだろうということです。

サミットの前の前の年に全国商店街振興組合連合会という僕らの一番上部団体から、北海道は、現在、ほかのところに比べてCO₂をたくさん出している。暖房の関係ではないのですけれども、CO₂削減についてチームマイナス6%と組んで何か取り組みをなさいということでやりました。クール・ビズは喜んでネクタイを外しますけれども、ウォーム・ビズはなかなか難しいです。2,400店にお声がけして実際にウォーム・ビズを

やった店は10件ぐらいでした。私は、責任をとりまして、実際に自分の店でやりました。20度から21度ぐらいの店内の温度です。これは、はっきり言って従業員は寒いと言います。なので、それをどうしたら避けられるかといったら、湿度を上げるしかないだろうということです。ところが、ここで加湿器で湿度を上げたら何の意味もない、電気を使うということはエコでも何でもないだろうということで、植栽で上げることにしました。つまり、緑を店内にたくさん置いて、光合成の問題でいい影響もあるということもありますし、葉っぱから水が蒸発していくということで湿度を上げるということで、実際に21度でも我慢できるところまではいきました。ただ植栽が異様に高いのと日が当たらないとすぐに枯れてしまう、冬場にやるのは非常に困難であることがわかりました。一冬で湿度を上げれば耐えられるのはわかったのですけれども、エコに湿度を上げる方法を考えなければならぬと思っております。

そんなにすごいことはできていないのですけれども、チャレンジだけはしていこうとしております。

商店街というのは、まとまっているようで全然まとまっていない組織で、えいやとはなかなかできない組織ですけれども、だからこそ、2者選択があったときには、判断基準の中に環境という、もうかるかもわからないかだけでなく、お客様が喜ぶか喜ばないかと同じぐらい環境ということも選択の切り口にしてやっていきたいと思います。ですので、小さなことからということで行っております。

新保委員

今までのチャレンジの取り組みをされて、商店街にメリットのフィードバックとかビジネスとして活性化されたとかも良かったという効果はいかがでしたか。

菊池委員

環境活動で直接的にもうかることはないと思います。それだけで考えたら、経費がかかりますので、マイナスの方が大きいと思います。ただ、我々は商店である以前に一市民でもありますので、そういうことは積極的にやっていかないと、今度は排除されるのではないかという危機感はあるのです。

昔は、我々は会社一つ一つが非常に小さな組織で、社長の一声ですぐ変わるということで、我々は何でもすぐに時代に対応できるのだと言いましたけれども、例えば電球の器具をエコ器具に変えるだけでお金がかかるわけです。なので、逆に我々は動きがそういうものに対応しづらくなってきています。逆に、大手の方が一夜にしてできます。そういうことを考えると、どちらが環境に配慮している企業かと言われたら、本来、我々が一番気をつけなければならないところのはずなのに、それができないということが現実として起きてきております。そういうものを避けるためには、本当に我々ができること一個一個を積み重ねていかないと、僕らは一夜にしてはできないのです。

ですから、格好よく言うと環境に配慮していると言いますが、結構びくびくしながら、市民として認めていただきながら、地域に根差して活動していきましようというこ

とだと思っております。

宮本（尚）委員

今、札幌に商店街は幾つあって、どのくらいの加盟店があるのですか。

菊池委員

今、札幌市全体には103の商店街があると言われております。ただ、これは結構減っていております。ちょうど1年前ですと、108と言われていました。それが今103です。実は、うちの加盟している商店街も、今、3個解散するという話があるので、間もなく100を割ってしまうと思います。

全部で何件あるかは、うちの組織ではないのでわからないのですが、うちはそのうちの46が組合員です。約2,500の組合員店がおります。

宮本（尚）委員

この組合連合会で会議などをされていると思いますけれども、そのときに全体の共通目標みたいなものを毎年決めていらっしゃるのかということと、その中で札幌らしさの議論はありますか。

菊池委員

スローガンのようなものは決めておりません。ただ、毎年の通常総会の際の議案書で事業計画と予算が出ますが、その鏡の部分にこういうことをしたいというようなことを毎年重要なところは書いております。私どもは地域核としていろいろなところで住民が集える一番フリーな場ということを目指しておりますのでそういう形の目標をもっております。

札幌らしさというのは、これはなかなか難しいのです。ネガティブな部分を消す札幌らしさというのは、例えば二酸化炭素を出すということをつぶしていこうというのがあるのですけれども、商店街として札幌らしさを出していこうというのは結構しんどいかなというのがあります。

札幌は商店街ということ自体が少ないのです。私鉄がないので駅もないということで、商店街自体を維持していくのが非常に大変です。そういうことを念頭に置きまして、まず、あるところの維持と仲間づくり、商店街振興組合といたしましても加入脱退は自由ですので、商店街振興組合になるべく入って、おのおの立場でまちに対して投資していきましょう、一緒にやりましょうというのが我々の加入促進です。

小林会長

次は、札幌ハイヤー協会からご出席いただいております照井幸一委員をお願いいたします。

照井委員

札幌ハイヤー協会の照井と申します。

今、札幌圏のタクシーがどういう状況でどんなことを取り組んでいるか、環境についてもどうしているかということをご説明したいと思います。

まず、今、タクシー業界というのは非常に疲弊しております。長引く経済不況ということもございまして、利用者の方々がどこを節約するかということ、やはり生活防衛で、通勤

にタクシーを使う方はもうほとんどおりません。それから、飲み会も少ないです。そういう部分では、やはり地下鉄、あるいは電車、バスがある時間帯に帰られるということで、かつての十数年前の薄野のにぎわいというのはもうほとんどなくて、行かれた方はご存じのとおり、二重、三重の駐車場で歩く人の邪魔になっているという社会問題になっているわけです。

当然のことながら、お客さんに乗っていただければ収入が上がらない産業ですから、お客さんが減っていく、あるいはタクシーの回数が減るということになると、運転手の年収も減っています。したがって、若い世代が入ってこれないというか、運転手の構成は、78%が60歳以上ということですので、本当に高齢化社会ということで、年金をもらっているか、とも稼ぎをしている方々でないとなかなか入って来られない産業になります。

それで、業界として需要の喚起策とか、交通問題等の解消といった部分をどうやるかということは今取り組んでおります。大きな項目としては、タクシーサービスの充実の向上、運行の効率化、環境対策の推進、運転者の労働条件の改善という大きく三つの柱で進めていこうと思っています。

タクシーサービスの充実向上の部分では、一つは、地域に安心と女性とかお年寄り、子どもがタクシーに乗ったらほっとするという環境をつくっていかねばいけないということで、一つは子ども110番タクシー、SOS防犯タクシー、地域のパトロールということです。コンビニエンスストアの強盗なども結構あるものですから、その駐車場で、コンビニエンス組合と連携しまして、夜中に休憩することによって、タクシーがとまっているということで抑止力になるということもやっています。

それから、福祉タクシー、介護タクシー、特に毎年、タクシーの日ということで、大体50組100名前後の方々に、1日観光ということで、洞爺湖へ行ったり、小樽へ行ったり、夕張へ行ったりと、気軽に外に出ていただくという取り組みを無料で招待しております。

それから、需要の喚起ということからいくと、観光客をいかに取り込むかということで、観光案内のできるタクシードライバーを育てよう、認定制度を使おうということです。それは、北海道観光マスター制度とか、札幌シティガイドの資格者などを優先するという部分でメリットをつけた形での観光案内ができるということです。どこへ行ったらおいしいものが食べられるか、どこへ行ったら穴場があるのかという部分を勉強して取り組んでいきたいと思っています。

最近、苦情処理が結構多いのです。どうしても近場の方は、遠慮がちに「乗ってよろしいでしょうか」と。何でお客さんが遠慮して乗らなければならないのか。先ほど言ったように、なかなかお客さんが乗らないということで、1時間、2時間待って650円だと、態度に出るのです。それはやめろと言っているのですけれども、その辺の接客マナーをある程度徹底しなければいけないと思います。そういう部分も含めて、国際都市札幌、おも

てなしの部分も含めてやっていこうと思っております。

それから、環境問題ということでいけば、今、デジタル方式で、電波もアナログからデジタルに変わってきています。これは、いわゆるGPS、ABMシステムということで、会社のセンターでどの車がどこにいるかということで、顧客から電話が来たら一番近い車が発車できるシステムです。ですから、むだな回送をしないで運行効率を図るということです。

それから、グリーン経営認証取得というのは、国土交通省でやっているものですが、事業所の社長トップ以下、すべての方々が環境に優しい経営をするためにはどういう取り組みをするのかという認証制度を取得して、その取り組みについて認定を受けて進めていくということです。そこまでいかないところについては、低公害車の導入とか、アイドリングストップ、エコドライブということで、昨年10月に、公安委員会の運転試験場を使って、ドライバーを集めて、そこでどういう運転をしたらいわゆるエコなドライブができるのか。ただ、タクシーは、エコな運転をしていると、お客さんによっては急げという人もいるのでなかなか難しいのですが、その辺にいろいろ取り組んでいます。

現在、全国で22万台ほどのタクシーがあります。今、こういった状況ですから、需給バランスが崩れているので、2割減らそうという動きがあります。そうしますと、全国で4万台減らそうということになります。1日300キロ以上走りますから、1リットル当たり5キロとして4万台掛けて365日分の燃料をたかなくて済むということで、今、取り組みをしております。

先ほど言ったように、1日20本、30本ぐらいしか走らなくて、650円ばかりとなると、やはり自分の収入に響くということがどうしても出てきます。ただ、それを断っているということは、結局、自分でタクシーに乗るお客さんを減らしているわけですから、まず近場の人や足の不自由な方々がいろいろいらっしゃるので、そういう方々の気持ちになって、近いところほど、「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」というにこした対応が必要です。それを受けて、労働条件を改善するためには、やはり多過ぎる車を減らして、台当たりの運収を上げようということで動いています。

それから、違法行為の撲滅ということでいけば、二重、三重駐車、それからドアを開けて待っているのも基本的に違反です。それから、交差点の中で堂々ととまっているのも違反です。そこで、薄野の商店街中心とJR北口に隠しカメラをつけています。これを見た瞬間に各社にすぐに連絡が行きます。ただ、死角に入ってしまったら、カメラの届かないところがあるのです。そこを指導員が回って歩くということです。

今、運転手の登録制度をやっているのですが、違反とか苦情の多い運転手は出ていってもらおうということをやっているのですが、なかなかうまくいっていません。実は、この間、第1号が出たのです。これは、観光タクシーか何かで、安くしますからといってメーターを倒したのです。それがたまたま映ったのです。会社名も全部わかったものですから、その運転手は登録証の取り消し第1号となりました。お客さんにしてみれば安いタクシーは

いいのでしょうけれども、お客さんの安全を守るという部分からいくと、コストを下げる、運賃を下げるということは、どうしても安全面に影響してしまうのです。適正なコストという部分からいくと、きちんと見ていかなければいけないし、若い人が入ってこられる産業づくり、構造づくりが必要だと思えます。

それから、これが先ほど言った観光客用のコースをつくった観光ルート別のマップでして、7コースぐらいあるのですが、これは2割引きでやっています。これは全社共通でやっていますので、観光タクシーのAコースがやりたいと言っただけであれば、2割引きで運行できますので、ご利用いただければと思います。

次に、クリーンな排気ガスという資料で、ほとんどがLPガスですが、2ページ目の左側の表で、札幌でいくと、上が札幌市内、札幌交通圏、三つ目の合計が、タクシーとしては5,216両、そのうちLPGが4,941両ですから、94%がLPGをたいて走っております。LPガス自体は、ほとんど完全燃焼するというので、一酸化炭素も少ないですし、NOxについてはディーゼルの数分の1ということで、非常にクリーンな排気ガスと出すということです。ただ、環境税の問題がありまして、今度はLPガスにも1リットル当たり20円から30円かかるということになると、多分、相当きつくなると思っています。

一番最後のページは、それでは低公害車はどれくらい入っているのかということです。これは、札幌交通圏だけですけれども、今のところはプリウスが98台入っています。これにつきましては、LPガスが1リットル七十四、五円です。ガソリンが百二十七、八円です。プリウスは1リットル当たりの走行距離が3倍ぐらいあるものですから、ちょっとプリウスで実験しようということで入れています。ただ、自家用車と違って、タクシーというのは1日の走行距離が300から400キロぐらいですから、それを5年ももたせるということで強度がどうかということで、今、実験をしております。メーカーの方には、さらに低公害車の車両を導入してほしいというふうにお願いしています。

それから、朝日新聞に「エコナビでCO減」というものが出ました。これは、北海道運輸局の事業として、タクシーのデジタル無線の情報をトラックの渋滞情報に提供したという実験をしました。その結果、タクシーがスムーズに走っているところをトラックも通るという格好でやりましたので、30%ぐらい経費の削減になりました。

環境問題の取り組みとしてはなかなか進んでいないのですけれども、こういった会議の中で参考になるご意見をぜひ活用して進めていきたいと思えます。

久保田委員

地下鉄の終電近くになりますと、駅周辺一帯が全部タクシーの渦になるのです。お客さんが乗る場所が1カ所しかないものですから、そこにずっと1直線に並んでいると、一番後ろから渋滞状態でいくので、とてもアイドリングストップをできる状態ではないのです。例えば、二つにするとか、台数を制限するという方法があってもいいのかなと常々思っていたのですけれども、どんなものでしょうか。

照井委員

タクシーの専用乗り場をつくるということでいけば、道路を占有しないでいいのですけれども、タクシーベイということになると、道路に切り込みを入れることになって、都市計画で、周りに花壇があるということで美観の問題もあります。それでは、30台分つくるかということも物理的に無理です。

地下鉄の付近は、相当苦情が来ているのです。結構パトロールをしているのですけれども、行けば散って、いなくなったら来るという状況が続いておりますので、優良ドライバー制度を検討して、そういうマークのついたタクシー以外はとめないという格好にする。あるいは、ナンバープレートの奇数、偶数でどここの地域についてはきょうは1番とか3番とか5番の車しか入れないということで半分に減ります。そういった取り組みをやりたいと考えていまして、これは4月以降に、具体的に進めたいと思います。

小林会長

次に、ezorockから来ていただいております宮本(奏)委員、お願いいたします。

宮本(奏)委員

環境NGO ezorockという団体の宮本(奏)と申します。

私の団体は、地域の中でのお祭りにおいての環境活動であったり、お祭りだけではなく音楽イベント、さまざまな場所での環境活動を行っています。主な目的は、その環境活動を通して人材を育成するということなのです。そういったお祭りでの環境対策に若者のボランティアと一緒に活動することで、その環境の活動が解決していくとともに人材が育っていくということを目的として活動しております。

皆さんに私たちの団体がどんな活動や体験をしているか、どういう変化が若者にあるかということを感じてもらいたいと思っております、きょうは映像を少し用意しています。

{ DVD上映 }

宮本(奏)委員

これはライジングサンロックフェスティバルという北海道で最大のロックイベントの一つです。3日間で約7万人のお客さんが来る中で、私たちはボランティアを約160人集めて、ごみの分別をお客さんに呼びかけて分別を行ってもらおう活動しております。今見ていただいたところは、ボランティアの意見や、活動の風景でした。

もう一つ見ていただきたいのは、別の活動で、私たちは畑で自分たちで作物をつくるという活動をしています。

{ DVD上映 }

宮本(奏)委員

さまざまな環境活動を通して若者が育ち、社会に輩出されて、その若者が社会を変えて、環境を変えていくという団体を目指して活動しております。実は今年で設立10年を迎えます。今、専従職員は5名いまして、それ以外のボランティアスタッフは、先ほど活動していたようなメンバーが40名ほどいます。

一番最初にもお話をしましたが、環境活動を通して若者が成長する瞬間を生み出していております。環境活動というのは、若者の人生にダイレクトに影響していく問題ととらえていまして、その環境問題を改善していくためにイベントの環境対策といったさまざまな活動を展開して、青年層の人材育成をしていく団体です。

例えば、ここに問題を抱えている人、依頼主がいます。うちのイベント、お祭りなどで何かごみを対策したい、ごみが出てどうしようもないのだよねという方の相談に e z o r o c k が応じます。そこで、e z o r o c k の中で話し合いを行って、たくさんいるボランティアと一緒に、どんなことができるか、どんな活動ができるかというアイデアや意見を交わし合います。ウェブサイトの中でみんなでやりとりができるコミュニティを持っていまして、そこで意見やアイデアを募って、まとめてもう一度、問題を抱えた依頼主に提案します。そして、話がうまくいきますと、その実施まで自分たちで行います。その実施に関しては、e z o r o c k の担当者と話し合いに参加したボランティアでプロジェクトチームをつくって活動を実施していきます。それが、問題の解決につながっていく、それと同時に、人材の育成、一緒に活動したボランティア自身も社会を変えて変わっていったという学びがあるということで人が育っていくという図で展開しております。

ざっとではありましたが、このような活動を通して、今現在、組織の中でどういう人材を育てていけばいいか、そのためのプログラムはどうかという話し合いをしています。

佐々木委員

人材育成のために非常にいいことだと思うのですが、会員数 215 名の中に学生もかなりいると思うのですが、その割合は一般より学生の方が多いですか。

宮本(奏)委員

六、七割ぐらいが大学生です。

佐々木委員

その中には、高校生の加入はないのですか。大学生というのは4年間なり6年間なりたったら就職で札幌市からいなくなるし、次世代に引き継ぐということになれば、やはり高校生ぐらい、できれば中学生ぐらいから会員が欲しいと思うのですが、その辺はどうでしょうか。

宮本(奏)委員

受け入れとしてないわけではなく、もちろん会員になっていただきたいと思っているのですが、私たちとしては、大学を卒業して社会に出ていく人たちが何か活動を通して学んでもらったことを社会で発信していく存在になってほしいという思いがあるので、そういった年代を見て活動しています。

小林会長

最初に設立された世代だけで終わらないで、次から次へ新陳代謝して新しい学生が入ってきているのですね。非常にいいことだと思います。

久保田委員

本当に素晴らしい活動だと思います。

私が常々思っているのは、環境問題をイベント扱いしてはいけないと思っているのです。ムーブメント、生活の一部としていかなければいけないのではないかと私は常々思っているのですけれども、そういう若者が育ってくると、取り立てて環境問題というふうにとらえなくてもよくなると思っているのです。

宮本（奏）委員

まさに、今おっしゃっていただいたとおりだと思っています。例えば、私たちの地域のお祭りで分別をやるということで何を意識しているかということ、そこに来た地域に住んでいる人たちが、自分の家に帰ったときに家庭のごみも、あそこでこういうふうにしたよな思い出したり、それを家族に話したり、そして実践するということにつながられるようなイベントという場を意識しているのです。まさに、そこに繋がなければ本当に意味がないと思っております。

井出委員

この前、ezorockの代表の草野さんと少しお話ししまして、私たちは割りばしを集めるということをやっております、ezorockのライジングサンでも随分割りばしが集まるということで、こっちは家族みんなでボランティアに参加しようと思っております。

そこで聞きたいのですが、家族会員みたいなものはあるのでしょうか。中学生、高校生なのですけれども、みんなで入ったりできますか。先日、そういうものはこれから考えたいと思っているのですという話を草野さんから伺ったのですが、どうなったかなと思ったのです。

宮本（奏）委員

ファミリー会員はぜひつくっていきたいです。

井出委員

家族ぐるみで参入してボランティアをするというのはすごくいいことではないかと思うのです。私も、インターネットを使って、こういうことをやっている団体があるということや、定期的に割りばしについても情報発信できる場なので、それをこっちは家族でezorockの若者に交じて頑張りたいと思っています。

小林会長

3人の方々にご発表いただきまして、どうもありがとうございました。

菊池委員は、全市のいろいろな商店街がそれぞれの活動の中で広い意味での環境というものに協力してくださっているという素晴らしいご発表をいただきました。

それから、照井委員は、タクシー協会のご苦勞をいろいろお話しくださいました。本来、札幌では、公共交通をなるべく利用しようという中で、タクシーというのは準公共交通という位置づけで、年寄りでも障がい者でもだれでも任意に使ってもらえます。さらに、タ

クシーを使いやすくすることによって自家用車の所有数や都心への流入数を減らそうという扱いも都市では行っていますので、その点からも皆さんにいろいろご理解いただきたいと思っています。

また、ezorockのご発表をいただきましたが、そもそもは将来の環境というのは自分たちのものなのだ、だから自分たちが頑張らなくてはということで、若者の組織としてできました。それから、何かのきっかけがないと若者は集まってこないの、石狩湾新港でやる大変なミュージックフェスティバルがそのきっかけではあったのだけれども、あれに行ってみてごみの分別などに気づいたという人がたくさんいるわけです。ですから、きっかけは音楽であっても、イベントであっても、それが線香花火で終わるのではなくて、気づきというものにつながって行って、継続的に市民の活動といろいろなタイアップできたらいいなと思っています。先ほどの困っている人がいたらニーズを聞いて提案するというのは非常に新しい環境活動の形態だと思います。

(2) 札幌市の事業報告について

環境事業部企画課の木村企画係長より、資料4を用いて平成21年7月からの新ごみルール開始後のごみ量推移等について説明した。

久保田委員

今のご報告ですと、最終目標を既にもう十分上回っているということで、最終目標値を更新するご予定があるのかどうなのか。また、実際に個人や事業として出しているごみの量は減ってはいないけれども、分別でリサイクルの方に行ってしまったからたまたま数値がそうなったと私には見えたのです。実際に出している量を削減目標とされているのかどうかということがもう一つです。

もう一つは、現在出している燃えるごみの大半が生ごみだと思うのです。今後、その生ごみについての削減の取り組みのご予定があるのかどうなのか、この3点をお伺いしたいのです。

事務局（木村）

まず、計画の目標値の改定ですけれども、まず、新年度につきましては、篠路清掃工場の運転休止と申しましたが、それを確実に廃止できるようにということで、そちらの方を取り組む形になっております。今すぐスリムシティ計画の最終目標値を更新するというような予定は特にございません。

それから、次のご質問にありましたもともにごみ量があって、分別の結果、廃棄ごみ量が減ったのではないかというお話でしたけれども、一番最初の表にありますとおり、確かに燃やせるごみ、あるいは燃やせないごみ等の廃棄ごみ量も減っていますが、資源物と足しても去年の同時期と比べますと2割ほど減っているのです。そういう意味では、これは新ごみルール後、まだ1年もたっていない状況で、まだ確定的なことは申せないのだけれども、資源物も含めたごみの発生抑制、排出抑制的なものが働いているから、資源物を

足しても2割減なのかなという推測はしているところです。まだ確定的なことは言えませんが、資源物を足しても減っているような状況にあります。

もう一つは、生ごみのお話でしたけれども、燃やせるごみに占める生ごみの絶対的な量は変わっていませんけれども、占める割合は当然ふえております。これについては、新たに生ごみ減量資源力推進事業を新年度から始めまして、今まででもありました生ごみ関係の施策の中に、また新たなシステムを取り組んで、これから打ち出していく予定になっております。

宮本（尚）委員

札幌市の瓶・缶・ペットボトルという収集方法について、他都市ではなかなかないやり方です。それについての質問がうちの会員からよくあるのですが、風力で分別するそのやり方になっているのを見させていただいているのです。家庭に置いておくと、かさの問題もありますし、運搬のときの体積の問題もかなりあるのではないかなと思っています。そこら辺の改良というのは、今後、考えていないのかということです。

事務局（木村）

今のご質問は、多分、ペットボトルなどをつぶさないで一緒にまぜて出していただいているということで、理由につきましては、ペットボトルは風で飛ばして、鉄は磁石でくっつけて、アルミ缶は難しい電気の原理を使って飛ばしているようですが、今現在の収集の仕方では、ペットボトルが一種の緩衝材、クッションのような役目を果たしています。そういう意味で、つぶさないで出してくださいという意味もあります。これについて、今すぐに変えようという計画はありませんけれども、その分、体積が大きくなるのも事実ですし、ほかの瓶などとの兼ね合いもありますので、将来的には何らかの検討をしていくと思いますが、今すぐという予定はないです。

小林会長

それぞれの段階でつぶして出す方式もあるし、何通りに分けるかで収集コストが非常に変わるので、札幌市では一緒に出してもらって、機械的、磁力的に分けるということです。運ぶ容積ということも非常に重要ですので、何年かたった後で別な方法を考えられるかもしれません。今は、最後の分けるところとのセットで、そういう方式でやっているようです。

家庭の中でも、幾つに分けるかということで、場所をとりますね。宮本（尚）委員の、つぶしてから出したいというお気持ちはよくわかります。

今、新しいルールができてから、市民が非常に的確に応じたということで、札幌市民の意識の高さは私も非常に感じます。発生段階で仕分けをするということに市民が協力してくれています。それから、最終始末には金がかかるのだから、それをみんなで分担するのだということで、有料化ということで、なるべく小さく出ない暮らしに変えようというふうに気づきをして行動につながっています。何カ月かたってもリバウンドしていないということです。これは、私もすばらしいことだと思います。

(3) 平成 22 年度の活動予定等について

環境都市推進部環境計画課の三上より、資料 5 を用いて平成22年度の本協議会の活動予定について説明した。

久保田委員

市民啓発用パンフレット等の作成とありますけれども、どのぐらいの量のものをいつごろからいつごろまでにかけてやられるような格好になるのでしょうか。または、協働で参加する際の負担は、どのぐらい行けばいいのかというのはどんなものなのでしょうか。

事務局（宮佐）

私どもでいろいろなパンフレットを作成しております、実は、今現在、どのパンフレットをいつごろ改訂するかという計画はまだ立てておりません。それで、新年度に入りましたら、その辺を検討させていただいて、参画していただきたいと思っていますのすけれども、極力、ご負担をかけないように考えようと思っています。

また、いろいろな事業をここに記載させていただいておりますけれども、もし私はこの事業に興味があるからのぞいてみたいというご希望がありましたら、事前に私ども事務局に一報いただければ検討させていただきたいと考えております。

宮本（奏）委員

この協議会のそもそもの目的として私が認識していたのは、ここに集まってきている人たちの活動や団体の話を聞いて、そこで、こんな取り組みがさらにできたらいいよね、では、うちの団体と一緒にやりませんかということをごここで生み出していくということも一つあったのかなと認識しています。そのための活動発表会が、今、何回かされているのだろうと思っていたのですが、その部分がもうちょっとあってもいいと思いました。

このモニターとパンフレットに関しては、札幌市の方で出してくるもの、つくるものに対しての意見を言うということだと思えるのすけれども、それとは別に、ここに集まってきている人たちの活動を組み合わせたり、話し合っ何か新しいものを考える、生み出すという作業があってもおもしろいと思いました。いかがですか。

事務局（三上）

この協議会の場合は、委員の皆さんそれぞれの活動をもっと広げて、もっと深めていくという場でもありますので、今おっしゃっていただいたような取り組みも必要かと思っています。確かに、今回、活動予定ということで示させていただいたのは、市の事業に対するご意見をいただく部分に重点を置いたような形になっていると思いますので、今、宮本（奏）委員からいただいた意見について、今後、検討を進めていきたいと思っています。

小林会長

自発的、発展的にそういうものができればと思います。言い出された方の負担になり過ぎて仕事ができなくなったりしたらまずいすけれども、そこらのバランスを皆さんで協力しながら考えていきたいと思っています。

平成22年度の活動予定という事務局でつくっていただいた原案について、今のご意見も踏まえて若干手を入れるかもしれませんが、原案はこの協議会として了承することにしてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

太田副会長

きょう、3人の方に発表いただきまして、いろいろ活発にやっておられるなと感じました。ただし、菊池委員からお話があった商店街の問題とか、照井委員からあったタクシーの問題とか、今現在の経済的な問題を背景にしている問題が起きているなど。そういう状況を踏まえながらも環境に対する取り組みをどのようにやっていくかということ而努力しておられると感じました。そういうことで、皆さんの取り組みを、大変ながらも頑張っておられるということで関心をいたしました。

最後の活動予定で、私は個人的にリサイクルセンターとか札幌市の廃棄物処理場を見学されてはどうかと思います。皆さん、既に見ておられるのならいいのですが、まだ見ておられないのであれば、特にごみ問題というのは、環境問題にタッチする上で一番身近に感じられるところですので、実際にどういうところか見学された方がいいのではないかと私は思いました。

小林会長

ごみを分別したけれども、後で一緒に燃やしているのではないのか、分別したのが本当にどうなっているのかという疑念を持っておられる方がたくさんいます。どんな施設で、最後はどうなっているかということを見ていただくのはすごく大事だと思います。たくさん業者があるので、全部を一度にごらんいただけないと思いますけれども、事務局で計画していただいて、このほかにそんなスケジュールを入れていただいてもいいですね。何か考えていただきたいと思います。

3 その他

事務局の佐竹より、札幌市環境プラザの事業検討部会の設置について説明した。

4 閉会